

2023年3月期 第3四半期決算概要

- 売上高、営業利益は販売価格上昇、販売数量増加、また円安もあり増収増益を継続。
原燃材料やその他コスト増加の影響を販売価格改善により吸収
- 自己資本比率は中期経営計画 RP24 の財務目標 10%以上を維持
- 想定を上回る第3四半期累計実績を踏まえ、通期業績予想を上方修正
- RP24 の事業構造改革施策として、マレーシアの既存フロート窯に太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備の建設を開始（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）。
米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中

1. 2023年3月期 第3四半期決算

- 当第3四半期（10-12月期）の売上高は1,906億円（前年同期比+383億円、+25.2%）、営業利益は97億円（同+79億円、+432.8%）。自動車用ガラス事業では、価格改善の進展に加え半導体不足の影響からの緩やかな回復もあり、前年度第1四半期以来の営業黒字に転換
- 累計の売上高は5,662億円（前年同期比+1,233億円、+27.8%）、営業利益は242億円（同+96億円、+66.3%）。販売価格上昇、販売数量増加により増収増益を継続し、RP24の重点施策である「財務基盤の回復」を目指す
- 自己資本比率は11.6%（前年度末比△3.9pt）とRP24財務目標10%以上を維持

<損益計算書および財務指標>

(億円)	10-12月期（3か月）			累計（9か月）		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	1,523	1,906	383	4,430	5,662	1,233
営業利益	18	97	79	145	242	96
営業利益率	1.2%	5.1%	+3.9pt	3.3%	4.3%	+1.0pt
個別開示項目（純額）	△ 2	10	12	44	△ 439	△ 483
個別開示項目後営業利益（△損失）	17	107	91	189	△ 198	△ 387
金融費用（純額）	△ 32	△ 48	△ 16	△ 90	△ 113	△ 23
持分法による投資損益	22	21	△ 1	56	54	△ 2
持分法投資に関する その他の利益（△損失）	-	△ 4	△ 4	-	△ 11	△ 11
税引前利益（△損失）	7	77	70	154	△ 268	△ 422
当期利益（△損失）	10	22	12	105	△ 348	△ 453
純利益（△損失）*	0	17	16	86	△ 372	△ 458
EBITDA	111	202	91	422	544	121
フリー・キャッシュ・フロー	24	△ 119	△ 143	11	△ 214	△ 225

*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

(億円)	2022年 3月末	2022年 12月末	増減
総資産	9,393	9,456	64
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	1,096	△ 356
自己資本比率	15.5%	11.6%	△ 3.9pt

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	全地域で堅調な需要が継続、為替影響もあり大幅増収。エネルギーを中心とした原材料費高騰の影響を受けるが、販売価格改善により増益。第3四半期は欧州で需要が軟化。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続
自動車用ガラス事業	第3四半期は自動車メーカー向け販売価格改善がさらに進捗し、前年度第1四半期以来の営業黒字に転換。部品不足による自動車生産制約の影響が続くが、徐々に解消
高機能ガラス事業	堅調な需要とコスト削減を背景に、前年度9月に売却したバッテリーセパレーター事業を除き増収増益を継続。一方で第3四半期は、中国でのロックダウン影響による販売数量減少や、コスト上昇影響を受け利益率は低下

(億円)	2022年3月期		2023年3月期		前年同期比	
	10-12月期	累計	10-12月期	累計	10-12月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	748	2,069	936	2,757	187	688
自動車用ガラス事業	681	2,033	866	2,584	185	551
高機能ガラス事業	91	308	96	298	5	△ 10
その他	3	20	9	23	6	3
売上高合計	1,523	4,430	1,906	5,662	383	1,233
営業利益						
建築用ガラス事業	68	204	107	262	39	58
自動車用ガラス事業	△ 49	△ 59	6	△ 11	54	48
高機能ガラス事業	21	78	15	72	△ 5	△ 5
その他	△ 22	△ 77	△ 31	△ 82	△ 9	△ 4
営業利益合計	18	145	97	242	79	96

2. 2023年3月期 通期業績予想

- 想定を上回る第3四半期累計実績を踏まえ、通期売上高・営業利益・税引前損失・当期損失・純損失予想を上方修正
- 一方で、エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加の影響が継続。さらに金利上昇による潜在的な景気後退等のリスクにより事業環境は依然不透明
- 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力し通期業績予想達成を目指す

<業績予想>

(億円)	2023年3月期 第3四半期 累計実績	2023年3月期 通期予想 (前回予想)	2023年3月期 通期予想 (今回予想)	増減	2022年3月期 通期実績
売上高	5,662	7,400	7,500	100	6,006
営業利益	242	180	280	100	200
個別開示項目(純額)	△ 439	△ 450	△ 440	10	36
個別開示項目後営業利益(△損失)	△ 198	△ 270	△ 160	110	236
金融費用(純額)	△ 113	△ 130	△ 150	△ 20	△ 125
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	△ 34
持分法による投資損益	54	50	60	10	75
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	△ 11				△ 34
税引前利益(△損失)	△ 268	△ 350	△ 250	100	119
当期利益(△損失)	△ 348	△ 380	△ 340	40	68
純利益(△損失)*	△ 372	△ 410	△ 370	40	41

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

3. RP24に基づく構造改革施策の進捗

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指してRP24の主要施策を引き続き推進。
財務目標数値では、多額の減損損失計上後も、目標を上回る自己資本比率を維持

3つの改革

● 事業構造改革

- ・ マレーシアの既存フロート窯における太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備新設について、建設を開始
(2024年3月期第3四半期より生産開始予定)
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中
- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯で生産開始



マレーシアのフロート窯

● 企業風土改革

- ・ 従業員の声を踏まえ、企業風土改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を策定

2つの重点施策

● 財務基盤の回復 (2023年3月期 4-12月期実績)

- ・ 第3四半期に円安緩和、燃料価格低下に伴うデリバティブ評価益減少後もRP24の財務目標数値である自己資本比率10%超を維持
- ・ 2022年12月末現預金残高586億円、未使用融資枠263億円

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

<お問い合わせ>

広報部 Tel : 03-5443-0100